

神の愛の現れ、クリスマス



牧師 和田 忠三

約30年の会社員生活を経て牧師になりました。牧師になって10年が経ちます。職場での悩み、人生の悩み、キリスト教への疑問など、相談したいことを抱えておられる方はぜひお話してください。あなたのお越しをお待ちしています。

神はそのひとり子をたまわったほどに、この世を愛してくださいました。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである。聖書

ある牧師が「愛なしには生きられない」との小冊子を出しました。そのなかで、「自分が愛されると共に、愛する対象を持つていることが幸せな人生の秘訣と結ばれていました。確かにそうですよ。『愛する喜びと、愛される喜び』がセットになるときに、人生はより幸せに満ちたものとなりますよね。しかし、わかっていてもそうならないのが人間社会です。一寸したことから誤解や不信が生じ、ささいなことから疑念が渦巻き、やがては憎悪や嫌悪となり、人間関係はもろくも破綻していつているのです。

そのように人間の愛や親しさには限界がありますが、それを越えるかを超えた愛、すなわち「神の愛」をクリスマスを迎えようとしているこの時に、ぜひあなたにも知っていただきたいのです。なぜなら、クリスマスは神の愛の現れだからです。

独り子を賜った神の愛

神の愛を簡潔に言い表しているのが、上記の聖書(ヨハネによる福音書3章16節)の御言葉です。神は、私たち人間を愛されて、1人も滅びることがないようにと、御子イエスを、この地上に遣わしてくださいましたのです。

それまでイエスは霊なる御方として、父なる神と一緒におられました。この世のすべてを創造されたのもイエスでした。

しかし神は、人々が憎しみ合い、傷つけ合い、互いに不幸になつていく現実には御心を痛められました。そこで、人々に救いを与えるために、独り子イエスを、人間としてこの地上に遣わしてくださいましたのです。

この世に来てくださった主イエスの愛

クリスマス、それはこの世界を創造された神の御子イエス・キリストが人間となられてこの地上に来てくださった出来事です。仮に、犬の世界に危機が迫つていたら、そのことをまったく知らない犬たちに緊急事態を伝えて救うためには、伝える犬が必要ですよ。

イエスは霊なる御方でしたが、どこにでも自由自在に行き来することができ、疲れられることもありませんでした。しかし人間の身体となられたことにより、制約を受け、飢えや渇きも経験されたのです。孤独や悲しみも体験されることになりました。それらすべてを御承知のうえで、来てくださったのです。

人々を救う神の愛

先程の聖書の御言葉で、イエスが遣わされた目的は、「御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである」と明記されています。

神は聖にして義なる御方ですので、私たち人間は、神の前には「罪人」であり、滅びいく運命でした。しかし、そのような人間をあわれに思われた神は、「救いの道を用意してくださいました。」

それは、神の前になに一つの罪もない御子イエスを、すべての人の身代わりとして十字架に掛けることでした。イエスの十字架は、私を救うため」と信じる者にこの救いが与えられるのです。イエスはそのためにこの世に来てくださったのです。神の愛に感謝し、称えましょー！



あかし

中国からの引き揚げ後の人生
私は、中国の旧満州新京で育ち、終戦2年後の小学6年生のとき、愛媛県に引き揚げてきました。



西原信夫

内乱があり、非常な恐怖を覚えたことを記憶しています。

引き揚げ後、母が病弱のため、父は苦勞して子ども4人を育ててくれました。自分の人生は自分で切り開いていくのだという思いで、定時制高校卒業後、どんな環境におかれても、自分なりに精一杯努力してがんばっていました。

その後、大阪で働くようになり、私の都合で妹を呼び寄せました。この妹がクリスチャンで、以前から私に聖書を読むように勧めていました。自分の努力で現在がある、「何が神か」と思い無視していました。

妹が結婚のため田舎へ帰ることになり、妹の願いで、妹がお世話になった教会にあいさつをするために一緒に行きました。そこは倉庫を改造したところで、祈り会が行われていて、何か世のなかと違ったものがあるのを感じ、少し興味を持ちました。ただ、聖書とか神とか、別に必要ないと深く追求していませんでした。しかし、足しげく私を訪問してくださいる教会の牧師に誘われて伝道集会に出席しました。2人の友人の死が人生を真剣に考えるきっかけとなり、牧師になったことを話されていきました。自分が努力すれば何とかなるという思いが傲慢であることに気づき、罪を悔い改め十字架の救い主イエス・キリストを信じました。

「よく聞きなさい。心を入れかえて幼子のようにならなければ、天国に入ることではできないであろう」とこの聖書の言葉を自分のこととして受け止めることができました。

その同じ夜、教会の牧師夫妻の2歳のお子さんが天に召されました。牧師夫妻の計り知れない悲しみのなかで、引き換えるように私が救われたことを喜んでくださいました。以来50年になりますが、今まで大きな祝福を得ております。



満州新京にて(1942年)